



いつまでも探し続けよう

校長 田中秋人

夏休みが終わり、子どもたちが登校してきました。子どもたちの声を聞いていると私自身元気を分けてもらうことができ、学校に日常が戻ってきたと感じます。

今年の夏も、全国各地で猛暑が続く一方、場所によっては雨による甚大な洪水被害が見られました。被害にあわれた方にお見舞い申し上げます。うだるような暑さの日々や各地の厳しい洪水被害等のニュースで伝えられる情報を見ていると、いくら科学が発達しても自然の力の大きさを感ぜずにはいられませんでした。

さて、ヨシタケシンスケ作『にげて さがして』という絵本をご存じでしょうか。きっとお話の内容については知らない方でもヨシタケさんの絵を見たことはあるという方も多いと思います。この絵本の内容は、「よのなかにはいろいろな人がいる。あしのはやいひと、えのじょうずなひともある、なかには、ひとにひどいことをいったり、ひどいことをしたりするひともある。もし、ひどいことをされてしまったとき、とにかく、そのひとからはなれ、じぶんをまもるためにそのばからはなれること、そのために人はうごける。そしてもうひとつのうごくやくめは、きみをまもってくれるひと、きみをわかってくれるひとをさがして、そのひとのところにいくためだ…」と話は進み、そして最後は、「にげて さがして うごいて うごいて どうか いつか きみにすてきな なにかが、すてきな だれかが みつかりますように」と話が終わります。この絵本を読み、本当につらいときには逃げることの必要性や、常に理解者を探し続けて探求していくことの大切さを強く感じました。答えが一様でない昨今の世の中、だれもが絵本の中にいたような『ひどいことをする人』にも出会う可能性があると思います。しかしどのようなつらい境遇でも必ず『分かってくれる人・守ってくれる人』は存在しているはずで、自分にとってのこのような人を探し続けることが大切なのではないのでしょうか。

夏休みが終わりに近づいてくると、学校の再開に伴う様々なニュースが流れてきます。きっと今日の再開の日を心待ちにしていた児童がいる一方、そうでない児童もいるかもしれません。この様々な気持ちをもっている児童一人ひとりの思いに教職員はもちろんのこと、家庭の皆様や地域の方々も含め、児童の周囲の大人全員がそれぞれの児童にとっての『分かってくれる人・守ってくれる人』になることが求められていると感じています。

いよいよ学校が動き出しました。私自身も児童にとっての『分かってくれる人・守ってくれる人』となれるように一人ひとりの児童の成長に寄り添っていきたいと考えています。今月も温かいご支援をどうぞよろしくお願い申し上げます。

にげて さがして
ヨシタケシンスケ作